

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科	
科目名称	子ども教育入門ゼミ					授業形態	授業形態	演習	
科目コード	750112	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	実務経験教員	アクティブラーニング	○
担当教員名	各子ども教育学科教員							ICT活用	
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で学ぶために必要となる基礎的な学修技術を習得することにある。</p> <p>大学に入学し、「生徒」と呼ばれる高校生から「学生」と呼ばれる大学1年生になると、学修方法それ自体も大きく変化する。これまでの学修方法の「何が」「どのように」変わるのかを理解しないまま受講すると、『講義を受けていても、ノートの取り方が分からない』『レポートを提出しろと言われても、どのようなものがレポートか分からない』と戸惑い、期待される学修成果が得られないまま非効率的な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「大学で学ぶ」ためには、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」等の学修技術（＝「アカデミック・スキルズ」）の習得が必要であり、本科目はそれらの技術を段階的に身に付けることで、今後4年間で期待される学修成果を確かなものとするを目的とする。情報収集・整理等のメディアリテラシー、アカデミック・ライティングやプレゼンテーション、ディスカッション等の基礎的な学修技術を学ぶことを通して、「大学で学ぶ」ことの意味とそこで求められる学修の水準を知り、これから学修成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成することを目標とする。</p>								
関連する科目	子ども教育プレゼミを次年度に履修すること。								
授業の方法と進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前課題の発表により学びの課題を把握し、基礎的な読解を行った後に、ゼミごとに調査テーマを設定し、テーマにそって、文章表現（レポート作成）、情報収集、プレゼンテーションを行う。</li> <li>・基本的には、領域ごとに【個別ゼミ】→【全体もしくは合同ゼミ】（前半：各ゼミでの活動、後半：全体での解説や演習）の流れとし、学生が経験しながら学びを深めることを目指す。</li> </ul>								
授業計画【第1回】	1. 学生生活 オリエンテーション、学生生活指導、履修指導								
授業計画【第2回】	2. 学生生活 入学前課題レポートをもとにしたディスカッション								
授業計画【第3回】	3. 読解 ①読解の意義について理解する。 ②専門的な文献(入門書レベル)の読解スキルについて理解する。								
授業計画【第4回】	4. 読解 ①課題となった文献を要約し、発表する。 ②自身の文献の読み取りについて指導を受け、問題点と改善点を把握する。								
授業計画【第5回】	5. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を理解する。 ②自身が作成したレポートについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。								
授業計画【第6回】	6. 文章表現 ①アカデミック・ライティングの基本スキル、レポート作成手順と論文作法を再度確認する。 ②他のゼミの学生のレポートを検討しながら、より良いレポートについて議論する。								
授業計画【第7回】	7. 情報収集 ①情報収集の必要性や資料の種類や分類について理解する。 ②大学図書館やインターネットを使った情報収集の基本スキルを理解する。								
授業計画【第8回】	8. 学生生活 学生生活指導、履修指導								
授業計画【第9回】	9. 情報収集 ①他の学生の文献リストを検討しながら、より良い情報収集・整理について議論する。 ②課題となった文献リストの作成について指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③プレゼンテーションのアウトラインを作成し、役割分担を行う。								
授業計画【第10回】	10. 卒業中間発表会 ①少なくとも三つのゼミの卒業研究中間発表会に参加し、各々の発表のResearch Questionを掴む。 ②他のゼミ生と感想を交流しながら、問題意識の醸成に向けた議論を行う。								
授業計画【第11回】	11. プレゼンテーション ①プレゼンテーションの種類と特徴を知り、それらを作成する基本スキルを理解する。 ②自身が作成したプレゼンテーションについて指導を受け、課題と改善への見通しを掴む。 ③受けた指導をもとに、ゼミで一つのプレゼンテーションにまとめる。								

授業計画 【第12回】	12. プレゼンテーション ①成果発表(1) ゼミプレゼンテーションを行う。 ②他のゼミのプレゼンテーションを検討しながら、より良いプレゼンテーションについて議論する。 ③発表内容について、質疑応答を行う。
授業計画 【第13回】	13. ディスカッション ①ディスカッションテーマと論点を設定し、議論に必要な情報を収集・整理する。 ②ディスカッションに必要な態度・マナー及び生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	14. ディスカッション ①成果発表(2) 議論に必要な基本情報を提示し、論点を整理する。 ②議論する。 ③他のゼミ生と互いのディスカッションを検討しながら、より良いディスカッションについて議論する。
授業計画 【第15回】	15. 1年次の学びの総括 1年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術について理解する。 2. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を習得する。 3. 「大学で学ぶ」ために必要となる学修技術を活用して、よりよく学べるようになる。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)
授業時間外の学習 【予習】	(解説前) 次回の解説範囲の資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学習 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返って整理するとともに、学んだ学修技術を他講義で活用すること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 学習技術研究会 編著「知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ- (第5版)」 (くろしお出版、¥1800+税) 2. 山形大学基盤教育院 編「スタートアップセミナー 学習マニュアル なせば成る 改訂版」 (山形大学出版会、¥800+税) 3. 藤田哲也 編著「大学基礎講座 改増版 充実した大学生活を送るために」 (北大路書房、¥1900+税)
備考	